

みんなでまちづくりをしませんか

Myひろさき創生市民会議の参加者を募集

本年度から、市の最上位計画である弘前市経営計画の後半がスタートします。よりよい弘前市にするためには、市民の皆さんと共にオール弘前体制で一体的なまちづくりを進めていくことが必要であり、学生など若い世代も含めて、幅広い世代の参画が求められています。そこで、これからまちづくりのために、市民の皆さんと意見交換をする懇談会を開催しますので、弘前に対する皆さんの熱い思いをお聞かせください。

△とき 7月30日(土)、午後1時半～3時半
※第2回以降は別途お知らせします。

△ところ 市民会館(下白銀町) 大会議室

地震から命を守るために

木造住宅耐震に関するお知らせ

木造住宅耐震診断支援事業

建築基準法に基づく現行の新耐震基準は、昭和56年に導入されましたが、過去の震災や熊本地震では、旧耐震基準で建築されたものに大きな被害が発生しました。地震に対する住宅の安全性に関する意識を高め、住宅の耐震化を促進するため、木造住宅の所有者が希望する場合に、市が専門知識を有する耐震診断員を派遣し、耐震診断を行います。

△対象住宅 市内にある、①～④の要件すべてに該当する住宅

①昭和56年5月31日以前に建築されたもの／②一戸建ての専用住宅または併用住宅(延べ面積の2分の1以上を住宅の用に供し、かつそのほかの用途に供する部分の床面積が50m²以下であるものに限る)で地上階数が2以下のもの／③一般構法(在来軸組構法)または伝統的構法によって建築された木造住宅であること／④現在、居住している住宅であること

△対象者 対象住宅の所有者

△診断費用 申込者負担として、1戸あたり8,000円(延べ面積が200m²以下の場合)

※200m²を超える場合は400m²を上限に、申込者負担の増額で対応します。

△募集戸数 10戸(先着順)

木造住宅耐震改修促進事業補助金

住宅の耐震化を促進するため、耐震改修工事または

△対象 市民または市内に通勤・通学する人
△内容 市職員による市の取り組み説明や市民団体等活動紹介の後、参加者の意見や感想を聞き、意見交換します。
△参加料 無料
△申し込み方法 電話かファクスまたはEメール(住所・氏名・職業(学校名)、年齢(学年)、電話番号を記入)で申し込みます。
■問い合わせ・申込先 ひろさき未来戦略研究センター(☎40・7021、ファクス35・7956、Eメールhif@city.hirosaki.lg.jp)

青森県・函館 デスティネーション キャンペーン本番が スタートします!!

青森県と函館市をはじめとする北海道道南地域で、平成28年7月から9月までの3カ月間、「青森県・函館デスティネーションキャンペーン(青函DC)」が開催されます。平成27年7月から9月のプレDC、平成29年7月から9月のアフターDCを含めた3年間がキャンペーン期間となります。

■問い合わせ先 観光政策課(☎35・1128)

青函DCの目的とは?

平成28年3月26日の北海道新幹線開業を契機とし、自治体、観光関係団体、観光事業者などが一丸となって、地域の観光資源の掘起こしや磨き上げ、観光客受入体制の整備・充実を図りながら、全国のJRグループ6社の協力のもとに開催される青函DCを活用して、全国からの集中的な誘客や地域経済の活性化を図るとともに、本キャンペーン以降も継続して観光振興を推進する体制を確立することを目的としています。

青森県・函館DCのキャッチフレーズとキャラクターを紹介!

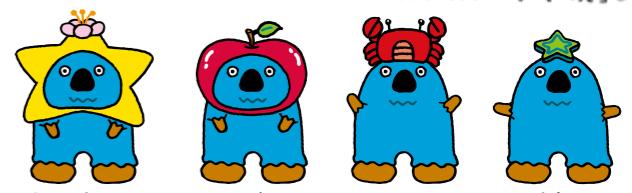
【キャッチフレーズ】

ひと旅 ふた旅、めぐる旅。

青森 ⇌ 函館
AOMORI ⇌ HAKODATE

青森県と北海道道南地域は、深い交流があり、さまざまな文化・観光資源があります。2つのエリアを周遊する旅のメリットを「1つの旅(ひと度)で2つの旅=ひと旅ふた旅」と表現し、1つの旅で2つのエリアを巡ることにより、深みのある旅の思い出を作りたいという願いを込めたキャッチフレーズとしました。

【キャラクター】



(函館山夜景Ver.) (りんごVer.) (かにVer.) (五稜郭Ver.)

「いくべえ」は、青森県のAの形を基調に、また、青森県の「青」色を使ったキャラクターです。平成22年2月から、青森デスティネーションキャンペーンをきっかけに、マスコットキャラクターとして青森県の魅力を多くの人にPRしてきました。これからは、青森県と北海道道南地域にちなんだ帽子やかぶり物を付けて、2つのエリアを紹介・案内します。

市民一人一人の心配りで、弘前ファンを増やそう!!

市民ができることは?

最近の旅行スタイルは、団体型から個人型へ変わってきており、さらに、有名な観光地や名所旧跡などを巡る物見遊山的な旅行から、その土地ならではの「食」や「体験」などを楽しみ、その土地に根付く生活文化に触れる旅行が好まれるようになりました。そうした中で、旅行者が見知らぬ土地の印象を決めるのは、地元の人の親切や心配りが一番のポイントとなります。そこで、比較的簡単にできる「おもてなし」の事例を紹介しますので、個人・団体は問いませんので、この機会に積極的に取り組んでみてはいかがでしょうか?



記念写真を撮っている人を見かけたら、代わりに撮ってあげましょう。



店先や家の軒先などに、季節の花を飾りましょう。



津軽弁でOK!



街なかでガイドマップや時刻表を見ている人を見かけたら、声を掛けてみましょう。